

Can-Am SPYDER

文—西尾琢郎 Takuro Nishio
撮影—リンカーベル LINKerBell



その未知なる魅力に迫る



モトコミュニティ LIRICA の青柳代表。バイクを楽しみ尽くした上で、さらに新たな喜びをどん欲に探し求めている。スパイダーの国内導入を誰よりも待ち望んでいた一人だ。

カナダ発の世界ブランド

BRP（ボンバルディア・レクリエーションプロダクツ）は、カナダの航空機メーカーとして知られるボンバルディア社から独立したレジャービークルメーカーだ。スノーモビルは、ボンバルディアの創業以来の事業だったが、それを創業家が出資する投資会社を買収。現在はボンバルディアとは独立したメーカーとして歩み続けている。生産拠点をカナダ本国の他、アメリカ、メキシコ、フィンランド、オーストラリアの5カ国に展開し、世界80カ国以上で製品を販売するグローバル企業だ。スノーモビルの「スキードゥー」、水上バイクの「シードゥー」の他、ATVや今回紹介する3輪ロードスターの「カンナム」など広範なブランドを

持ち、エンジン専門ブランドとしてバイクファンにもなじみのあるロータックスも、現在は同社の一部門となっている。

これまで日本では、スノーモビルや水上バイクなどのレジャービークルを中心に展開してきた同社だが、満を持して、カンナムブランドのロードスター「スパイダー」の日本上陸を果たすことになったのだ。

スパイダーを待ち望んだ男

カンナム・スパイダーが誕生したのは2007年のこと。折しもその年のデイトナバイクウィークの現場で、その実車に遭遇していたのが、バイクショップ「リリカ」の青柳代表だ。「ウチではいろいろな輸入ビジネスを手掛けている関係で、アメリカにも事

務所があります。ですからアメリカにはよく出かけるんですが、2007年の渡米の際、デイトナで見かけたのがこのスパイダーでした。登場直後ですから、おそらくBRP自らがテストマーケティング的に持ち込んだのだと思いますが『またおかしな物が出てきたなあ』という印象でした。ところが翌2008年、今度は現地で実車に乗れる機会があったんです」

青柳代表率いる「リリカ」は、国内4メーカーをはじめ、BMWに至るスーパースポーツモデルを取り扱い、鈴鹿8耐や全日本ロードレース選手権にもチーム参戦を行うなど「走り」にこだわるショップとして知られる存在。その青柳代表が触れたスパイダーの印象とはどのようなものだったのだろうか。「第一印象は『なんだこりゃ！』でしたよ。バイクのつもりで走らせると、

タンデムで楽しむスパイダーにも、3輪の安心感だけでなく、コーナリング時の独特の楽しさがある。バイクとは違った形の共同作業が求められるのだ。

